

<新潟市：新潟市時差出勤社会実験>

施策名	新潟市時差出勤社会実験
取り組みの背景 地域の交通環境問題 行政・市民ニーズ 交通基盤シーズ など	背景 1：自動車保有台数の増加と新潟市の近隣市町村における人口増加 背景 2：新潟市中心部における事業所集積と始業時間の集中 背景 3：朝の通勤時間帯に，新潟市近隣市町村から新潟市中心部へ向かう河川断面やバイパスインターチェンジにおいて渋滞発生
目的・ねらい 目的・ねらい 対象交通 など	● 目的・ねらい：通勤者の出勤時間を変更することにより，ピーク時間交通量の減少と，円滑な道路交通を確保し通勤者の通勤所要時間短縮やバスの走行性向上を図る ● 対象交通：新潟市中心部への自動車通勤者
取り組みの経緯 経緯・熟度 など	平成 9 年度 官公庁職員を対象とした時差出勤試行実験を実施し，一定の効果がみられた 平成 12 年度 民間事業所従業員・官公庁職員による時差出勤社会実験を実施
主体・広報・費用 実施主体 検討組織 広報スケジュール 費用負担 など	● 実施主体：新潟市 ● 検討組織：新潟都市圏における T D M 施策を推進するために設けられた「新潟都市圏 T D M 施策推進委員会」で，社会実験計画を検討 ● 広報：新潟市広報「市報にいがた」において時差出勤社会実験実施を告知 ● 費用負担：実験に要する費用は，事業主体である新潟市が負担

実施概要	●対象地域：新潟市及び近隣市町村 ●実施日時：平成12年11月6日(月)～10日(金) 通常出勤 平成12年11月13日(月)～17日(金) 時差出勤 ●施策内容：新潟市中心部へ自動車通勤している人を対象に，事業時間を30～60分変更 時差出勤者数 1,142人 (民間事業所 50事業所 351人，官公庁 4機関 791人)
対象地域 実施日時 施策内容 など	
効果測定内容	●効果測定内容： 交通実態：自動車交通量，渋滞状況，バス所要時間 アンケート：時差出勤者，通常出勤者(自動車通勤者約950人)，参加事業所 ●効果把握結果： ピーク3時間交通量の約3%の時間変更で渋滞緩和がみられた 時差出勤者の約75%が通勤時間短縮(10分以上短縮は25%) 時差出勤者の約75%が時差出勤を快適と評価
測定内容 効果把握 など	
取組上の課題	課題1：通勤者個人からは，通勤時間の短縮や時差出勤を実施すべきという評価が得られたが，事業所としては取引先との関係や仕事の段取りなどといった課題が挙げられた 課題2：事業所からは，行政の先導的な導入を望む声が多く挙げられた
合意形成 費用負担 など	
その他特記事項	
今後の方向性 地域指定 等	

以上

都道府県市名 : 新潟県新潟市
 担当部局名 : 都市整備局都市計画部都市計画課都市交通政策室